KINTETSU
NEWS RELEASE

近畿日本鉄道株式会社 秘書広報部
〒543-8585 大阪市天王寺区上本町6丁目1-55

平成２０年６月１２日

曲線区間以外の駅間も連続的に速度監視できる新型ＡＴＳを、６月１４日から、主要路線の一部で運用開始します

平成１８年７月１日に、国土交通省が定める「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」等が一部改正され､｢線路条件に応じた速度制限用ＡＴＳの設置｣等が新たに義務付けられました。

近鉄では昭和４２年から順次ＡＴＳを導入し、安全な列車運行を支えてまいりましたが、今回の改正に対応するため、従来型ＡＴＳ地上設備を生かしつつ、新型ＡＴＳ地上設備による速度制限を実現する一体型ＡＴＳ車上装置を開発し、この度、平成２０年６月１４日より、主要路線の一部で運用開始する運びとなりましたのでお知らせします。

新設する新型ＡＴＳは、トランスポンダ方式と呼ばれる方式で、曲線、分岐、駅近接踏切等の線路条件に応じて速度制限を行うとともに、併せて、各駅間の最高速度を連続的に制限する保安度の高いシステムであります。

記

１．運用開始日　平成２０年６月１４日（土）

２．導入区間
- 大阪線上本町駅～布施駅間、五位堂駅～榛原駅間
- 難波線全線
- 京都線京都駅～竹田駅間
- 南大阪線大阪阿部野橋駅～今川駅間
- 名古屋線近鉄名古屋駅～近鉄八田駅間

営業キロ程合計３９．２ｋｍ（近鉄の全営業キロ程５０８．２ｋｍ）
地上装置１６４組

３．導入車両編成数
１５編成（車上装置３０台）

詳　細

１．新型ＡＴＳの特長

（１）駅間最高速度および駅誤通過についても監視が可能です。

（２）曲線や分岐までの距離やこう配などデジタルデータを、地上装置から車上装置に送信、車上装置がその情報をもとに、曲線や分岐までの区間を連続的に速度監視します。

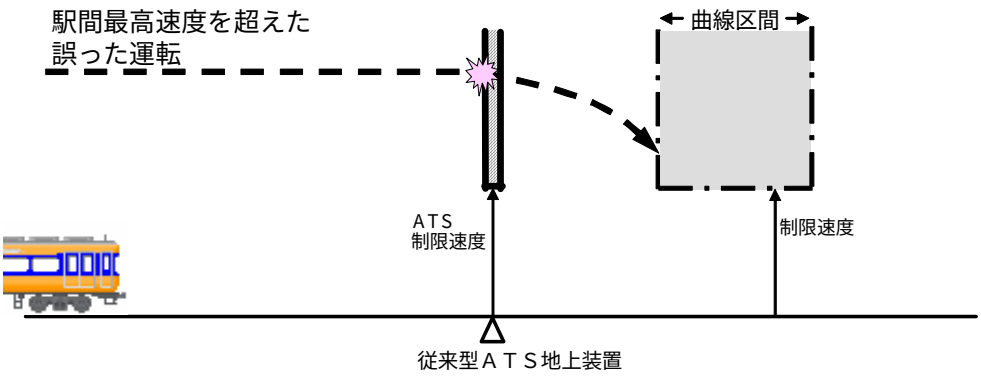
（３）一体型ＡＴＳ車上装置について

一体型ＡＴＳ車上装置とは、今回設置する新型ＡＴＳ地上装置だけでなく、従来型ＡＴＳ地上装置にも一体的に対応できる装置です。この開発により既存の地上装置を引き続き利用できるとともに車両改造を最小限にできコスト削減、工期短縮に大きく寄与しました。

（４）万一の故障を直ちに発見するため、新型車上装置を備えた車両が、新型地上装置上を通過するごとに地上装置をチェックする故障検知機能を備えています。

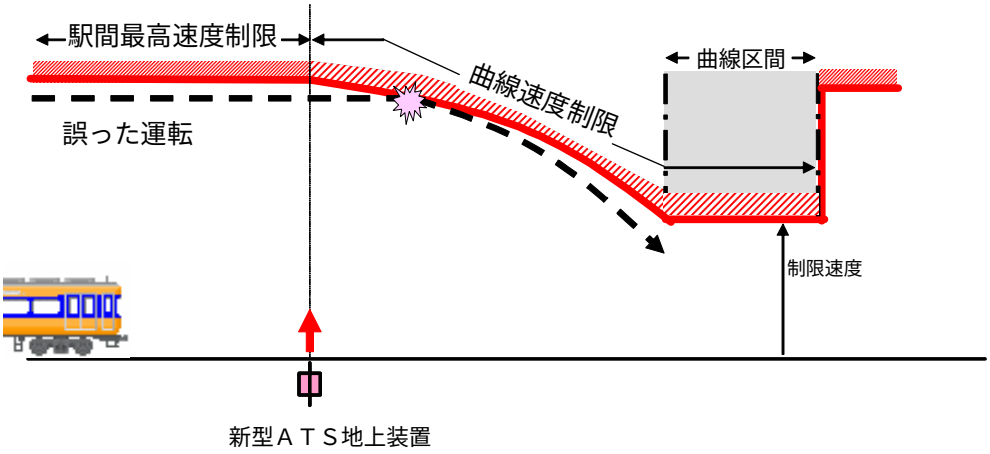
２．従来型ＡＴＳと新型ＡＴＳの比較

従来型ATSシステム



従来型ATSシステムは、ATS地上装置設置箇所だけで速度制限をし、駅間最高速度は監視できない。ＡＴＳ地上装置を通過する時点で駅間最高速度を大幅に超えて進入すると曲線までに制限速度以下にできない場合があった。

新型ATSシステム



新型ATSシステムは、駅間最高速度を含め、曲線終端部まで連続的に速度制限する。曲線以外の区間も常に速度を監視できる保安度の高いシステムで、従来型のように曲線までに制限速度以下にできないケースは無くなる。

３．今後の予定

・新型ＡＴＳは、平成２８年６月末までに計画的に、けいはんな線を除く全路線に設置する予定です。（今回完成分含む合計で車上装置約１，１５０台、地上装置約１，８００組）
※けいはんな線はＡＴＣ導入済みのため対象外。

・新型ＡＴＳの他に、「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」の改正で新たに義務付けられた運転状況記録装置（約１，１５０台）、運転士異常時列車停止装置（デッドマン装置約１，１５０台）等の設置も、この新型ＡＴＳ設置工事に合わせて進めます。

・これらＡＴＳ、運転状況記録装置、運転士異常時列車停止装置等の整備に係る設備投資額は約１００億円を見込んでいます。

以上